



麻布幼稚園だより

令和3年12月号
港区立麻布幼稚園
園長 酒井 正美

柿の葉が園庭に舞い、木にはわずかに残るのみとなりました。早いもので12月、2学期を締めくくり、年末へと向かう月となりました。

先日の「さくひんてん」では、参観いただきありがとうございました。子供たち一人ひとりが表現することを楽しみ、思いを込めた作品をお家の方に観ていただいたことが、とてもうれしい様子でした。「すてきだね。」「楽しいね。」などの言葉を掛けられた子供たちは、認められ尊重されていることを実感し、豊かな気持ち、次へのやる気をもつことにつながっていると感じます。近隣の保育園との5歳児同士の交流、園内の異学年の子供たち同士の交流も様々な形で行われ、大変貴重な機会となりました。5歳児は、友達と一緒に作り上げた場に遊びに来た3歳児、4歳児に合わせた言葉や態度で案内をしたり、一緒に遊んだりしている姿に感心しました。もちろん、どう接したらよいのかと戸惑う場面もありましたが、「〇〇ってお話するといいかもね。」と教師に声を掛けられ、自分なりに関わる姿が見られました。様々な場面や相手と関わる機会を今後も積み重ねていきたいと思えます。

今月は、「もちつき会」や「お楽しみ会」そして大掃除など、楽しいことや年末ならではの経験をしていきます。年末の「もちつき」は、日本の昔話にも出てくるお馴染みの伝統的な行事ですが、現代の生活の中ではなかなか経験できないものとなりました。

蒸籠(せいろ)を火にかけ蒸したもち米を、臼と杵でついてできる餅。蒸籠で蒸すための火、蒸した米の香り、米の粒が餅に変わっていく様子、大人や子供が集って大勢でもちつきをする楽しさなど、「もちつき」には、子供たちに体験をさせたいことが多くあります。伝統的な行事や遊びを経験することは、日本の文化や伝統に親しみをもつことにつながります。そして、自国理解をすることは、国際理解の意識の芽生えにもつながっていきます。保護者の皆様のご協力で、感染症対策を行いながら、子供たちが貴重な「もちつき」の経験をできることに感謝いたします。

学期末、年末に向け、幼稚園では学年に合わせて身の回りの片付けや整頓、大掃除などを経験させていきます。幼稚園では、日々の遊びの後の片付けや生活に必要な行動も、成長に合わせて自分の手で行うことを大事にしています。これからの社会を生きる子供たちには、デジタル化が進みスマートで便利な世の中になる一方で、多くの情報があふれる中で振り回されたり、バーチャルの世界に浸り過ぎたりすることなく、幸せに生きるためにそれらを使いこなす力をつけてほしいと願います。デジタル化が進む中だからこそ、幼児期に育てておきたい力があります。人との直接的な関わりは基より、様々な物と関わり、生活に必要なことを自分ですることが大切です。自分の体、頭を使いすることにより、物や物事の性質や仕組みを知ること、自分の使ったものに責任をもつこと、一つひとつ進めやり遂げること等を経験します。何でも簡単にできる訳ではないこと、それができるまでの苦勞を知ること、してくれた相手に感謝する気持ちを育てたいと思えます。

ご家庭でも、ぜひ、手伝いをさせてほしいと思えます。手伝いをさせる方が大変ということは多々あるかと思いますが、できることから少しずつでもさせていくことで、さらにできることが増えていくでしょう。自分でできたという満足感は自立心につながります。そして、お家の方や周りの人がしてくれることは当たり前ではないことやその有難さが分かり、「ありがとう。」と自然に伝えられる子供たちを共に育てていきましょう。